

科目名	国際経済政策論特殊研究	担当者	リック ユウグン 陸 亦 群	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	1990年代以降の世界経済では、グローバルな貿易自由化が進められると同時に、地域統合への活発な動きも見せている。東アジアでは、企業生産活動のグローバル化が進んだ結果、部品や中間財の貿易が増大し、域内貿易依存度はEUやNAFTA並みの高い水準になり、新しい国際分業関係が現れている。この地域では新たなダイナミズムが形成され、EUやNAFTAの経済統合とは異なった形の「事実上の統合」が進んでいる。本講座は、国際分業構造変化や産業集積の地域経済発展との関連性に着目して、理論と実証の両面から国際経済政策を分析することを目的とする。		
到達目標	最新理論および実証分析手法を理解し、仮説の提起・検証のプロセスを熟知することを到達目標とする。		
学修方法	基本教材リーディング、研究文献サーベイさらに実証分析を踏まえてレポート作成を基本的な学修方法とするが、研究指導には対面指導とソーシャルメディアなどのコミュニケーションツールを利用するオンライン指導を組み合わせて取り組む。また履修生にはサイバーゼミに参加し研究報告を行うことを薦める。		
スケジュール	レポート提出には前期・後期ごとに期限が設けられており、詳細スケジュールについては大学院HPを参照すること。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	問題設定、問題提起の方法、論理的展開、独創性、参考引用の適切性などを評価する。
	平常評価	20%	レポートの事前準備、研究文献サーベイ、図書資料の把握程度を重視する。
履修者への要望	<p>基本教材1については、単に基本教材を読み、理解し、それをまとめるだけでは不十分である。先行研究サーベイを徹底し、既存理論をしっかり抑え、他者の見解を鵜呑みにするのではなく、批判的吸収の見地にたって、自分なりの考えを如何に示すか、常に「何故か」と問う姿勢が必要である。</p> <p>基本教材2については、先行研究調査を通じて、既存理論や諸説をまとめ理解を深めると同時に、統計データの入手、データベースの構築、実証分析手法を確立していくことが重要であり、如何に自分なりの仮説を示し、それを検証するかが大切である。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 馬田啓一，木村福成編著 教材名： 『国際経済の論点』（文真堂，2012年）ISBN:978-4-8309-4771-1 2,800円+税
	本教材は、WTOと経済連携、貿易と直接投資、自由貿易と企業行動、通貨と金融危機、新興国と開発の5部から構成されている。貿易構造の多角化と東アジアの中間財供給、東アジアにおける生産・流通ネットワークの重要性、海外直接投資と空洞化の問題、アンチダンピング、欧州政府債務危機の根底にある問題、躍進する新興国と「中所得国の罠」など、国際経済環境における不確実性が高まるなか、国際経済に取り巻く様々な問題を論点に取り上げ、その現状や問題点、そして課題を考察したものである。
参考図書	新岡 智，板木雅彦，増田正人編『国際経済政策論』（有斐閣ブックス，2005年） ISBN:978-4-64-118318-6 2,500円+税 小浜裕久，深作喜一郎，藤田夏樹『アジアに学ぶ国際経済学』（有斐閣アルマ，2001年） ISBN:978-4-64-112133-1 2,100円+税 藪下史郎，清水和巳編著『地域統合の政治経済学』（東京経済新報社，2007年） ISBN:978-4-49-231373-2 3,800円+税
履修上のポイント	企業のグローバル化，中間財供給，工程間分業，新しい国際分業，国際経済秩序，自由貿易体制，FTA 戦略といったキーワードをしっかりと理解することがグローバルな政策課題の変遷を把握することにつながる。
レポート課題1	WTO体制における広域経済連携の現状と課題について
レポート課題2	日本企業のグローバル化と新たな国際分業の出現について，近年のアジアを取り巻く経済環境の変化と望ましい国際経済政策のあり方について

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 園部哲史，大塚啓二郎 教材名： 『産業発展のルーツと戦略-日中台の経験に学ぶ-』（知泉書館，2004年） ISBN:978-4-90-165434-0 4,500円+税
	グローバル化時代において発展途上国の工業化や産業発展を考える際に，産業集積が持つ経済的意味を考慮することの重要性は増しており，産業集積を如何に産業の発展に結びつけるかが重要な課題となる。本書は，情報の非対称性に関する経済理論，契約や組織の理論，経済地理学や産業集積の理論，農村工業化論などの既存理論に立脚しながら，アジアの経験とりわけ日中台のいくつかの事例研究を足掛かりに，理論・実証・政策の総合的視点から産業発展のプロセスの理論化を試みたものであり，現場のマイクロデータを駆使して，内生的産業発展論の視点から産業集積の発展過程を解明するとともに，空間経済学の視点から開発戦略への政策論的インプリケーションを明らかにしたものである。
参考図書	高中公男訳『経済発展と産業立地の理論—開発経済学と経済地理学の再評価』（文真堂，1999年） ISBN:978-4-83-094335-5 本多光雄・呉逸良・陸亦群・井尻直彦・辻忠博『産業集積と新しい国際分業-グローバル化が進む中国経済の新たな分析視点-』（文真堂，2007年）ISBN:978-4-83-094582-3 2,500円+税 若杉隆平『現代の国際貿易—マイクロデータ分析』（岩波書店，2007年） ISBN:978-4-00-022768-1 4,500円+税
履修上のポイント	空間経済学の産業集積理論と内生的産業発展論の2つの理論をつなぐ着眼点から産業発展を動的に説明する論理を構築し，それを開発戦略への取り組みに結びつく点がポイントであり，仮説の提起，統計的検証，結論の要約といった科学的な論述スタイルは注目すべきところである。また，実証モデルや分析の枠組みに適したデータベースの構築といった計量分析手法も学習のポイントである。
レポート課題1	産業発展と産業集積に関連する基礎理論およびその分析枠組みを把握し，今なぜ産業集積か，産業集積の本質は何かを明らかにした上，東アジア的特徴を解明する。そして本教材における産業集積ないし産業発展の動態的変化に関わる捉え方の問題点を明らかにする。
レポート課題2	これまでの実証分析手法を参考にしながら，アジアにおける産業集積と経済発展との関連性について，自分なりの仮説を立て，一カ国もしくは数カ国を対象に，実証モデルを構築し，それに適する統計データを収集し実証分析を行い，仮説を検証する。